

科 目	薬理学				
時間数	1 単位 30 時間	授業方法	講義	授業時期	1 年
講師名	⑤佐伯千春				
実務経験	⑤薬剤師(医療機関)				
ねらい	今日の医療にとって薬物療法は欠くことのできない治療であり、チーム医療の現場では、医師・薬剤師はもちろん、看護師にも薬物療法に関する知識と経験が求められる。ここでは、先行する人体の生理機能や疾患についての学習と関連づけて、薬理学の基礎知識を学ぶ。				
目 標	1. 薬物が人体に作用するメカニズムと、それに対する人体の反応について理解する。 2. 薬物治療に用いられる薬物とその作用について、臓器・組織の疾患と関連づけて系統的に理解する。 3. 薬物治療に用いられる薬物と患者指導について理解する。				
授業計画					
回	内 容				
1	1. 薬理学の基礎知識 (1)薬はどのように作用するか (2)薬はどのように体内をめぐるか (3)薬効に影響する因子と薬物中毒がおこる仕組み				
2	2. 与薬に関する法律と薬物の管理 (1)薬物の種類と取り扱い方法 ・麻薬の取り扱い ・薬事法による区分と取り扱い (2)処方と調剤 (3)投薬までのプロセスと患者指導				
3～15	5. 主な治療薬とその作用 (1)呼吸器系・消化器系作用薬 (2)循環系・血管系作用薬 (3)中枢神経系作用薬 (4)内分泌・代謝系作用薬 (5)免疫抑制薬・抗アレルギー薬と抗炎症薬・解熱鎮痛薬 (6)抗微生物薬 (7)抗悪性腫瘍薬(抗がん薬) (8)その他の薬剤 ・ビタミン製剤 ・輸液栄養剤 ・皮膚疾患治療薬・点眼薬 ・放射性診断と治療薬 (9)救急の際に使用する薬物 (10)漢方薬 (11)消毒薬				

	<p>6. 主な治療薬と患者指導</p> <p>(1) 呼吸器系・消化器系作用薬</p> <p>(2) 循環系・血管系作用薬</p> <p>(3) 中枢神経系作用薬</p> <p>(4) 内分泌・代謝系作用薬</p> <p>(5) 免疫抑制薬・抗アレルギー薬と抗炎症薬・解熱鎮痛薬</p> <p>(6) 抗微生物薬</p> <p>(7) 抗悪性腫瘍薬(抗がん薬)</p> <p>(8) その他の薬剤</p> <p>・ビタミン製剤 ・輸液栄養剤 ・皮膚疾患治療薬・点眼薬 ・放射性診断と治療薬</p>
評価方法	<p>その時間数の3分の2以上の出席者に限り受験資格を与える。</p> <p>学科終講時に行う筆記試験及び平素の学習状況を総合して評価する。</p> <p>60点以上を及第点とする。</p>
教科書	<p>疾病の成り立ちと回復の促進③薬理学: 医学書院</p> <p>治療薬マニュアル 2021: 医学書院</p>